

中間評価結果（平成17年度採択研究課題）

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	集客地の活性化に資する、道路のホスピタリティ表現手法についての研究開発	東京大学アジア生物資源研究センター 教授 堀 繁	C

< 研究継続の妥当性評価 >

- ・ 道路のホスピタリティの概念が整理されておらず、現段階での研究の見通し、進捗状況が良好でないため、計画を修正する必要がある。

< 修正内容 >

- ・ わが国の道路が抱える「ホスピタリティ」上の問題点は、必ずしも歩行者ゾーンなどに限るものではない。例えば、高速道のPA、一般の幹線道路の沿道や道の駅、バイパス整備後の旧道への対応などについて、道路行政上も大きな関心を持っているところである。このため、道路の各クラスに応じた整理を行い、研究方法の具体性とその応用の現実性を十分につめた研究計画を再提出していただきたい。
- ・ ホスピタリティおよびホスピタリティ表現の概念整理が必要であり、その調査、分析、評価の方法を提示していただきたい。
- ・ 2年目で成果（アウトプット）を出す明確な目標設定をお願いしたい。

< 今後の研究計画・方法への指摘事項 >

- ・ 本研究では「事例集」の質が重要と考えられるため、「事例集」の内容（グラフィックデザイン含む）の充実を図り、出版可能なものを完成させる体制計画とすることが必要と思われる。できれば、写真集とコメントだけでなく、図面なども整理していただくことが望ましい。
- ・ できれば単なるデザイン論に終らず、道路の計画、利用、建設、維持管理費用負担の主体、手法、制度に対する新しい知見と提案が可能となるように努力していただきたい。
- ・ 今回は国内調査に重点を置いて実施していただくことが望ましいと思われる。

評価

- A：当初計画は順調に実施され、現行の努力を継続することによって目標達成が可能と評価される。
- B：当初目標を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意し、一層の努力が必要と判断される。
- C：このままでは当初目標を達成することは難しいと思われるので、評価者からの指摘事項に沿って、当初計画の適切な変更が必要と判断される。
- D：現在までの進捗状況に鑑み、今後の努力を待っても当初計画の達成は困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。